

| 結論 | | 本論③ (支えている人) | | | 本論② (和菓子と文化の関わり) | | | | | | 本論① (和菓子の歴史) | | | | 序論 | |
|--------|---|---|---|--|------------------------------------|--|---|--------------------------------------|---|---|---|--|--|--|------------------------------|--|
| 筆者の主張 | 事例のまとめ | 多くの人々 問いの答え 作の人たち | 問いの答え 和菓子職人 | 問いの答えと 新たな問い | 和菓子と 季節の事例 | 和菓子と 茶道 | 和菓子と 思いの事例 | 人々の願いや 年中行事 | 和菓子と 文化の関わり | 和菓子と他の 子の区別 | 洋菓子と和菓 子の区別 | 砂糖の普及に よる影響 | 和菓子の歴史 に影響を与え たもの | 和菓子の 由来 | 問い | 話題提示 |
| ⑰ | ⑯ | ⑮ | ⑭ | ⑬ | ⑫ | ⑪ | ⑩ | ⑨ | ⑧ | ⑦ | ⑥ | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| とができる。 | 生活の中にある受けつがれてきた和の文化にどんな歴史や文化との関わりがあるのか、どんな人がそれを支えているのかを考えることで、わたしたちもまた、日本の文化を受けついでいくことができる。 | 和菓子作りに関わる職人だけでなく、それを味わい楽しむ多くの人々に支えられることで、現在に受けつがれている。 | 昔ながらの手作業によって和菓子作りに関わる道具や材料を作る人たちも、和菓子の文化を支えている。 | 和菓子を作る職人は技術を受けついできたが、技術をみがくだけでなく、季節ごとの変化を感じ取ったり、他の日本文化に親しんだりすることで、和菓子作りに必要な感性を養っている。 | 和菓子の文化は、どのような人に支えられ、受けつがれてきたのだろうか。 | 見た目の印象や言葉の響きが、季節を味わい楽しむことをいつそうゆたかなものにする。 | 和菓子は茶道とも深いかわりを持っており、茶道同様、季節をたくみに表現したものが求められてきた。 | この節句に食べるかしわもちやちまきには、子孫繁栄の願いがこめられている。 | 和菓子は年中行事と結び付き、人々の生活の中に根付いており、そこで食べる和菓子には人々の願いや思いがこめられている。 | 和菓子は年中行事と結び付き、人々の生活の中に根付いており、そこで食べる和菓子には人々の願いや思いがこめられている。 | 明治時代以降、西洋からやってきたチョコレート、ケーキなどの洋菓子と区別するものとして日本固有の菓子を和菓子と呼ぶようになり現在に至る。 | 江戸時代になると砂糖が広く使われるようになり、砂糖の特性を生かした菓子作りの技術が進み、菓子作りは発展した。 | 飛鳥から平安時代に中国に送られた使者が伝えた唐菓子や鎌倉から室町時代に中国に勉強に行った僧が伝えた点心、戦国から安土桃山時代を中心に広まった南蛮菓子などが日本の歌詞に応用されていった。 | 日本古来の食べ物に、外国から来た食べ物に影響を与えることで和菓子の歴史に変化が生まれた。 | 和菓子はどのようにしてその形を確立していったのだろうか。 | 和菓子は古くから受けつがれてきた日本の伝統的な文化の歴史の中で、様々な文化と関わりながら発展し、現代に受け継がれてきた。 |

